

講演タイトル 『Dual Zone Technique for anterior immediate implant』

抄録 抜歯即時埋入は、抜歯とインプラント埋入を同時に行う処置であるため、従来の方法と比較すると、治療期間、外科的侵襲の点で、非常に大きな利点がある。しかし、抜歯後の歯周組織の治癒により、長期予後や審美的な点で、問題がある可能性も、以前から指摘されてきた。このような背景から、先生によっては、即時埋入は行わないという方針で診療されている先生も少なくはない。特に、審美領域では、臼歯部と比較して、わずかな硬組織、軟組織の変化が問題となることがあるため、治療前の様々な因子の評価と、治療時のコントロールが必要となる。インプラント治療の中でも、難易度の高い、審美領域のインプラント治療に対するアプローチは、これまでいくつか提案されてきたが、まだゴールドスタンダードがなく、様々なアプローチで行われているのが、実情である。

本講演では、審美領域のインプラント治療の有力な一つの方法である、Dual Zone Technique を、症例を通して、ご紹介したい。また、アジア人の特徴からも、どのように審美領域のインプラント治療を行っていくのか、審美領域のインプラント治療に必要なインプラントの特徴についても、議論したいと思う。